

**九州大学総合研究博物館年報**  
Annual Report of the Kyushu University Museum

第2号

2005-2006年度

2007年10月

**九州大学総合研究博物館**  
The Kyushu University museum

# 九州大学総合研究博物館年報

## 目次

I. 博物館の 2005-2006 年度の活動	1 頁
II. 組 織	2 頁
III. 事 業	5 頁
1. 展 示	5 頁
2. 教 育	8 頁
3. 学術標本	12 頁
4. 情報発信	12 頁
5. 新聞等による報道	13 頁
IV. 教員の研究活動	14 頁
V. 規 則	28 頁

## I. 博物館の2005-2006年度の活動

九州大学総合研究博物館は2000年4月に発足し、今年で8年目を迎えました。博物館の活動につきましては、年報1号（2004年3月発行）では2000～2003年度までを、また、外部評価報告書（2006年3月発行）の第2部参考資料では2004年度分の活動を報告いたしました。本年報では、その後の2005～2006年度分の活動を取扱います。

博物館の事業では、従来行ってまいりました公開展示、特別展示、サテライト展示を開催しました。公開展示では福岡市少年科学文化会館で、2005年度に「自然界のなかまたち」、2006年度に「海ののりもの展」を開催し、特別展示では学内で、2005年度に第4回P&P研究成果一般公開「九州大学教育研究の最前線」、2006年度には同第5回のP&P展示、また2005年度に「ひとあし先に行ってきましたー伊都キャンパスの植物たちー」を開催しました。学外の場所を用いたサテライト展示としては、福岡空港第1ターミナル、前原市伊都文化会館、志摩町総合保健福祉センター、二丈町健康ふれあい施設、福岡市保健環境学習室での展示を継続いたしました。

社会教育では、学内での公開講演会として2005年度に「シーボルトが集めたニッポン」、2006年度に「よみがえる標本ー骨・動物・ヒトー」を開催しました。また、新キャンパス糸島地区自治体との連携交流を推進するための「地域資源再発見塾」として、2005年度には「可也山シンポジウムー歴史に学び、魅力と未来を語ろうー」など、2006年度には「食と農を考えるー食の安全と健康な生活ー」などの講演会を開催し好評を得ました。

研究の分野では、750万点を保有する九州大学の所蔵標本のデータベース化を進めており、各種コレクションの収集、整理を行うとともに、データベース構築の終わったファイルから順次博物館ホームページより公開を行っています。

教育の分野では、学芸員資格取得コースで、学部、大学院の自然史系、文化史系の授業、博物館実習を継続して行っています。また、各教員が関連大学院・学部で専門とする分野の講義・演習等を担当または分担しています。

2006年3月に出版された博物館の外部評価報告書につきましては、その内容を真摯に受け止め、博物館専任教員で作るワーキンググループを立ち上げ、理念に関する再検討のほか、各種活動についての検討を行い、今後に役立てる考えであります。

これまで学内に分散していた博物館教員は、2007年10月以降旧工学部本館に移動し、研究室のほか収蔵庫、展示室等がある程度確保できる見通しとなりました。これを契機に、今後より一層博物館活動を推進していきたいと考えております。また、大学移転に伴い、各研究院等からの標本、文書、機具等の博物館への移管が増加しています。博物館としましては、貴重な資料が散逸・廃棄されないよう、学内に協力を呼び掛け、また目を光らせておきたいと考えております。

（総合研究博物館長 多田内 修）

## Ⅱ. 組 織

総合研究博物館の組織は館長のもと研究部、資料部、フィールドミュージアム部、事務部から構成されています。さらに、運営の諮問機関として、運営委員会があります。

### 館長

2005年4月 - 2006年3月 村江達士(理学研究院)

2006年4月 - 2007年3月 鳶 洪(比較社会文化研究院)

### 運営委員会委員

(2005年度)

村江 達士(総合研究博物館長・委員長), 松隈 明彦(副館長・副委員長), 中野 仁雄(副学長), 今西 裕一郎(附属図書館長), 村上 和彰(情報基盤センター長), 佐伯 弘次(人文科学研究院), 服部 英雄(比較社会文化研究院), 堀 賀貴(人間環境学研究院), 熊野 直樹(法学研究院), 北澤 満(経済学研究院), 鈴木 敦典(言語文化研究院), 佐野 弘好(理学研究院), 隠居 良行(数理学研究院), 皆川 洋子(医学研究院), 名方 俊介(歯学研究院), 田中 宏幸(薬学研究院), 江原 幸雄(工学研究院), 山下 茂樹(芸術工学研究院), 金子 邦彦(システム情報科学研究院), 橋爪 健一(総合理工学研究院), 毛利 孝之(農学研究院), 嘉村 功(生体防御医学研究所), 市川 香(応用力学研究所), 藤尾 瑞枝(先導物質化学研究所), 岩永 省三, 中牟田 義博, 中西 哲也, 宮崎 克則(総合研究博物館), 大森 禮次郎(理学部等事務長)

(2006年度)

鳶 洪(総合研究博物館長・委員長), 松隈 明彦(副館長・副委員長), 柴田 洋三郎(副学長), 有川 節夫(附属図書館長), 村上 和彰(情報基盤センター長), 佐伯 弘次(人文科学研究院), 服部 英雄(比較社会文化研究院), 堀 賀貴(人間環境学研究院), 熊野 直樹(法学研究院), 北澤 満(経済学研究院), 鈴木 敦典(言語文化研究院), 佐野 弘好(理学研究院), 隠居 良行(数理学研究院), 目野 主税(医学研究院), 名方 俊介(歯学研究院), 田中 宏幸(薬学研究院), 江原 幸雄(工学研究院), 大島 久雄(芸術工学研究院), 高橋 規一(システム情報科学研究院), 大滝 輪卓(総合理工学研究院), 飯田 弘(農学研究院), 籾 博幸(生体防御医学研究所), 市川 香(応用力学研究所), 三島 正章(先導物質化学研究所), 岩永 省三, 中牟田 義博, 中西 哲也, 宮崎 克則(総合研究博物館), 秋枝 一敏(理学部等事務長)

### 研究部(2005 - 2006年度)

一次資料研究系: 教授 岩永 省三, 助教授 中牟田 義博

分析技術開発系: 教授 松隈 明彦, 助教授 中西 哲也

開示研究系: 助教授 宮崎 克典, 助手 小島 弘昭, 助手 三島 美佐子

資料部(2006-2005年度)

[自然史部門]

動物・医動物分野：姫野 國祐(医)，毛利 孝之(農)，飯田 弘(農)，金子 たかね(農)

植 物 分 野：矢原 徹一(理)，井上 晋(農)，安井 秀(農)，川口 栄男(農)，三島 美佐子(博)

昆 虫 分 野：篤 洪(比文)，高木 正見(農)，矢田 脩(比文)，荒谷 邦雄(比文)，多田内 修(農)，  
上野 高敏(農)，緒方 一夫(農)，紙谷 聡志(農)，津田 みどり(農)，小島 弘昭(博)

水生生物分野：松井 誠一(農)，川口 栄男(農)，野島 哲(理)，森 敬介(理)，望岡 典隆(農)

地史古生物分野：酒井 治孝(比文)，高橋 孝三(理)，佐野 弘好(理)，松隈 明彦(博)，鹿島 薫(理)，  
下山 正一(理)，坂井 卓(理)，清川 昌一(理)

岩 石 分 野：寅丸 敦志(理)，石田 清隆(比文)，池田 剛(理)，中牟田 義博(博)，宮本 知治(理)

鉱 物 分 野：加藤 工(理)，石田 清隆(比文)，石橋 純一郎(理)，中村 智樹(理)，久保 友明(理)，  
中牟田 義博(博)，桑原 義博(比文)，上原 誠一郎(理)，本村 慶信(理)

人類先史分野：田中 良之(比文)，中橋 孝博(比文)

有機化石分野：村江 達士(理)，山内 敬明(理)，北島 富美雄(理)

地球電磁気分野：湯元 清文(理)

生 薬 分 野：田中 宏幸(薬)

[文化史部門]

考 古 分 野：岩永 省三(博)，宮本 一夫(博)，溝口 孝司(比文)

記録資料分野：服部 英雄(比文)，有馬 学(比文)，吉田 昌彦(比文)，植田 信廣(法)，西村 重雄(法)，  
田北 廣道(経)，荻野 喜弘(経)，佐伯 弘次(人文)，中野 等(比文)，高野 信治(比文)，  
熊野 直樹(法)，宮崎 克則(博)

建 築 史 分 野：

[技術史部門]

資源・素材分野：福島 久哲(工)，渡邊 公一郎(工)，中西 哲也(博)，今井 亮(工)

機 械：鬼鞍 宏猷(工)

※名簿中の下線は2006年度分野主任を，かっこ内は所属を表します。所属の省略は以下となります。

人文：人文科学研究院，比文：比較社会文化研究院，法：法学研究院，経：経済学研究院，  
理：理学研究院，医：医学研究院，薬：薬学研究院，工：工学研究院，農：農学研究院，  
博：総合研究博物館

フィールドミュージアム部(2006-2005年度)

陸 生 生 物：大賀 祥治(農・演習林)，薛 孝夫(農・演習林)，大槻 恭一(農・演習林)

水 生 生 物：野島 哲(理)，森 敬介(理)

博 物 館 教 員：館長および専任教員

## 事務部

専門職員：都築 健二(～2006年3月31日)，木下 隆司(2006年4月1日～)

事務補佐員：山本 亜希子(～2005年7月31日)，赤峰 倫佳(2005年8月15日～)

研究支援推進員：福原 美恵子

## 協力研究員

相原 安津夫(九大名誉教授)，青木 義和(九大名誉教授)，井澤 英二(九大名誉教授)，井川 敏恵((独)産業技術総合研究所特別研究員)，木船 悌嗣(福大名誉教授)，三枝 豊平(九大名誉教授)，平嶋 義宏(九大名誉教授)，森本 桂(九大名誉教授)，柳 哮(九大名誉教授)，湯川 淳一(九大名誉教授，元博物館長)，島田 允堯(九大名誉教授)

## Ⅲ. 事業

九州大学に散在する貴重な標本・資料を大学内における教育・研究に活用していくために、標本・資料の整理・データベース化を行うとともに、九州大学が市民に開かれた大学としての責任を果たすための一つの窓口として、大学内で行われている教育・研究の成果を一般に広く公開する目的で、学外での展示やインターネットを通じた紹介活動を行いました。

### 1. 展示

#### 1-1. 公開展示

##### 第6回公開展示

「自然界のなかまたち」-九州大学所蔵標本資料展 I -

期間：2005年8月12日～9月4日

会場：福岡市立少年科学文化会館

主催：九州大学総合研究博物館・福岡市立少年科学文化会館

後援：福岡県教育委員会・福岡市教育委員会

入場者数：6815名



##### 第7回公開展示

「空と海ののりもの展」

期間：2006年7月21日～8月30日

会場：福岡市立少年科学文化会館

主催：九州大学総合研究博物館・福岡市立少年科学文化会館

後援：福岡県教育委員会・福岡市教育委員会

協力部局：工学研究院海洋システム工学部門

入場者数：9304名



## 1-2. 特別展示

「九州大学教育・研究の最前線」－第4回P&P研究成果一般公開－

期間：2005年5月9日～6月10日

会場：九州大学50周年記念講堂

共催：九州大学総合研究博物館・九州大学P&P専門委員会

展示内容：超高温・好気発酵法による有機性廃棄物の資源化新技術の創生／地球外物質による生命の起源を含めた太陽系形成に関する研究／医工連携による先端医療の開発／インドネシアにおける環境を考慮した石炭鉱山の開発／計算理工学総合リサーチコアの活動展開／糸島地域における健全な水循環系の構築／教育改善を促進する評価手法の開発と教育評価マニュアルの作成

「ひとあし先に行ってきました」－伊都キャンパスの植物たち－

期間：2005年10月17日～11月13日

会場：九州大学50周年記念講堂

主催：九州大学総合研究博物館

展示内容：元岡・伊都キャンパスの植物を紹介



「九州大学教育・研究の最前線」－第5回P&P研究成果一般公開－

期間：2006年5月9日～6月9日

会場：九州大学箱崎キャンパス旧知能機械工場1階展示室

共催：九州大学総合研究博物館・九州大学P&P専門委員会

展示内容：飛行船を用いた地雷探査システムの研究／浸潤・転位能と腫瘍血管新生を標的としたHGFアンタゴニスト・NK4による膀胱癌の遺伝子治療／次世代化学機能デバイスの基盤技術としてのセラミックスウエットプロセッシング－ナノレベルからの構造と機能の制御－／グリーンケミストリーの確立を目指した先導的教育・研究システムの構築と展開／アジアにおける小児先端医療の展開：保健衛生環境調査と主要疾患の発症要因・病態の解析および診断・治療・予防法の確立／生体工学における学際的教育の創設／ハイブリッド型船舶自動航行システムの開発に関する研究／生体防御機構を基盤とした先端医学／農学分野における研究パートナーシップの構築／消化器癌の網羅的遺伝子解析に基づいた分子標的治療の開発／植民地朝鮮における日本人生活誌の再構成－木浦とその周辺地域を事例として－／感性融合技術の創造－学部・大学院の教育研究から最先端技術の開発、ベンチャー設立まで－／九州大学の新しい英語教育－平成16-17年度P&Pの成果を踏まえて

### 1-3. サテライト展示

福岡空港サテライト展示（福岡空港第一ターミナル2階）

展示内容：

- 川と海の生命展（1）川の生命を守ろう（2005年2月1日～4月27日）
- 川と海の生命展（2）旅する魚たち（2005年4月28日～8月2日）
- 川と海の生命展（3）海の生命を守ろう（2005年8月3日～2005年11月5日）
- 川と海の生命展（4）マリンバイオ（2005年11月6日～2006年6月7日）
- 倭人伝の道と北部九州の古代文化（1）～（4）（2006年6月8日～）

前原市伊都文化会館サテライト展示（伊都文化会館玄関ロビー）

展示内容：

- 九州の地下資源（金）（2005年2月19日～10月14日）
- 九州の地下資源（地熱）（2005年10月15日～2006年9月2日）
- 川と海の生命展（川の生命）（2006年9月3日～11月2日）
- 川の命を守ろう（田で生活する生物たちの危機）（2006年11月3日～2007年1月6日）
- 旅をする魚たち（有明海だけで生活するエツってどんな魚）（2007年1月7日～）

福岡市保健環境学習室まもるーむ福岡サテライト展示（まもるーむ福岡・展示室）

展示内容：

- 植物をもっと知ろう（1）（2005年11月～2006年6月）
- 植物をもっと知ろう（2）（2006年6月～）

志摩町総合保健福祉センター「ふれあい」

展示内容：

- 福岡県で絶滅に瀕している植物たち（2006年1月19日～4月15日）
- 福岡県で絶滅に瀕している貝たち（2006年4月16日～7月9日）
- 福岡県で絶滅に瀕している魚たち（2006年7月10日～9月2日）
- 川と海の生命展（マリンバイオ）（2006年9月3日～11月2日）
- マリンバイオ（大きな可能性を秘める海の小さな生き物）（2006年11月3日～2007年1月6日）
- マリンバイオ（遺伝子って何だろう）（2007年1月7日～）

二丈町健康ふれあい施設「二丈温泉きららの湯」

- 絶滅に瀕している植物たち（2006年1月19日～4月15日）
- 福岡県で絶滅に瀕している魚たち（2006年4月16日～7月9日）
- 福岡県で絶滅に瀕している貝たち（2006年7月10日～9月2日）
- 川と海の生命展（とる・つくる・そだてる）（2006年9月3日～11月2日）
- とる・つくる・そだてる（限りある水産資源の保護と管理）（2006年11月3日～2007年1月6日）
- とる・つくる・そだてる（作り育てる漁業）（2007年1月7日～）

## 2. 教育

総合研究博物館では、教育への関わりとして、学芸員資格取得コースの講義を担当するとともに、各教員の専門分野を生かして、大学内の学部・学府での講義を兼任の教員として担当しています。社会教育に関しては、博物館主催の公開講演会を企画し、一般社会人の多くの参加を得ました。

### 2-1. 大学教育

#### 2-1-1. 学芸員資格関係講義・実習

科目	担当者	開講部局	開講時期
博物館概論	松隈・岩永	理学部	前期
博物館経営論	岩永・松隈	理学部	後期
博物館資料論	中牟田	理学部	前期
博物館情報論	中西	理学部	前期
視聴覚教育メディア論	中西	理学部	後期
植物学標本実習	三島（分担）	理学部	前期
地球惑星科学標本実習	松隈・中牟田・中西	理学部	前期
動物学標本実習	小島（分担）	農学部	前期
博物館資料論	宮崎	文学部	前期
博物館資料論	岩永	文学部	後期
博物館学実習Ⅲ	宮崎	文学部	前期
博物館学実習Ⅳ	宮崎	文学部	後期

#### 2-1-2. 学部教育

科目	担当者	開講部局	開講時期
地球惑星生物学	松隈	理学部	3年前期
地球惑星生物学実験Ⅰ	松隈（分担）	理学部	2年後期
地球惑星生物学実験Ⅱ	松隈（分担）	理学部	3年前期
地球惑星科学実習Ⅰ	松隈（分担）	理学部	3年前期
地球の構成と環境	松隈（分担）	全学共通	1年後期
地球惑星科学特別研究	松隈	理学部	通年
考古学講義ⅩⅣ	岩永	文学部	後期
結晶物理化学	中牟田	理学部	2年後期
地球惑星科学特別研究	中牟田	理学部	通年
農学実験第一	小島	農学部	2年後期
農学実験第二	小島	農学部	3年前期
農学実験第三	小島	農学部	3年後期
農学実験第四	小島	農学部	通年

### 2-1-3. 大学院教育

科目	担当者	開講部局	開講時期
生物圏進化学	松隈	理学府	前期
地球史生物史	松隈 (分担)	理学府	後期
地球惑星科学特別研究 I	松隈	理学府	通年
地球惑星科学特別研究 II	松隈	理学府	通年
階級社会形成論 I・III	岩永	比較社会文化学府	前期
階級社会形成論 II・IV	岩永	比較社会文化学府	後期
鉱物解析学	中牟田	理学府	前期
物質科学演習	中牟田 (分担)	理学府	前期
地球惑星科学特別研究 I	中牟田	理学府	通年
地球惑星科学特別研究 II	中牟田	理学府	通年
歴史資料学(資料解析論) I・III	宮崎	比較社会文化学府	前期
歴史資料学(資料解析論) II・IV	宮崎	比較社会文化学府	後期
鉱物工学実験第一	中西	工学府	通年
鉱物工学実験第二	中西	工学府	後期
昆虫学演習	小島	農学府	通年
農学特別研究	小島	農学府	通年

### 2-1-4. 非常勤講師

宮崎 西南学院大学 2005年度, 2006年度

## 2-2. 社会教育

### 2-2-1. 公開講演会

第5回公開講演会

「シーボルトが集めたニッポン」

日時：2005年11月13日

会場：九州大学50周年記念講堂

主催：九州大学総合研究博物館

演題／講演者

シーボルトの日記からみた再来日のコレクション／石山禎一先生(東海大学), シーボルト植物コレクションにみる科学的収集／藤井伸二先生(人間環境大学), シーボルト収集の鳥獣類標本について／武石全慈先生(北九州市立自然史・歴史博物館), ナガサキアゲハの江戸参府；シーボルトの昆虫標本が教えてくれる200年前の自然／久松正樹先生(ミュージアムパーク茨城県自然博物館)



## 第6回公開講演会

「よみがえる標本－骨・動物・ヒト－」

日時：2006年10月21日

会場：九州大学50周年記念講堂

主催：九州大学総合研究博物館

演題／講演者

小型哺乳類と標本／毛利孝之先生（九州大学）、遺体科学の挑戦／遠藤秀紀先生（京都大学）、人骨から見える古代社会／田中良之先生（九州大学）



## 2-2-2. コミュニケーションミュージアム事業

（九大糸島会・総合研究博物館）

（2005年度）

第8回地域資源再発見塾

日時：2005年9月23日（金）

会場：解放センター前原市隣保館

演題：ロボットによる町づくり（山本 元司氏，九州大学工学研究院）

第9回地域資源再発見塾

日時：2005年11月6日（日）

会場：二丈町立中央公民館

演題：里山保全と竹林拡大を考える（薛 孝夫氏，九州大学農学研究院）

第10回地域資源再発見塾

日時：2006年3月5日（日）

会場：志摩町総合保健福祉センターふれあい

可也山シンポジウム「歴史に学び，魅力と未来を語ろう」

午前の部 可也山登山

- 午後の部
1. 基調報告「降倭武将・沙也可～名前の由来とその人物」（丸山 雍成氏，九大名誉教授）
  2. パネルディスカッション「歴史に学び，魅力と未来を語ろう」

会員交流事業（九州大学教職員と糸島一市二町職員の交流促進）

日時：2005年10月8日（土）

会場：志摩町新町

ふれあいバスツアー（新キャンパス見学，地域の再発見，大学と地元との交流）

日 時：2006年2月12日（日）

コース：九大伊都キャンパス → 二見浦 → 志摩町総合保健福祉センター → 伊都国歴史博物館  
→ 白糸酒造 → 二丈町福ふくの里 → 浮嶽神社

（2006年度）

第11回地域資源再発見塾

日 時：2006年7月22日（土）

会 場：二丈町立中央公民館

演 題：食と農を考える－食の安全と健康な生活－（今泉 勝己氏，九州大学農学研究院）

第12回地域資源再発見塾

日 時：2006年9月16日（土）

会 場：伊都文化会館

演 題：変化アサガオの世界（仁田坂 英二氏，九州大学理学研究院）

第13回地域資源再発見塾

日 時：2007年2月17日（土）

会 場：志摩町総合保健福祉センター

演 題：貝類から見た糸島の自然（松隈 明彦氏，九州大学総合研究博物館）

会員交流事業（九州大学教職員と糸島一市二町職員の交流促進）

日 時：2006年10月21日（土）

会 場：志摩町新町

ふれあいバスツアー（新キャンパス見学，地域の再発見，大学と地元との交流）

日 時：2006年11月25日（土）

コース：雷山千如寺 → 伊都国歴史博物館 → 九大伊都キャンパス

### 2-2-3 海のゆりかご～次世代につなげる文化と生きもの～

（海のゆりかご実行委員会主催，九州大学総合研究博物館・九州大学ユーザーサイエンス機構  
（Varietas・子どもプロジェクト）共催）

中尾勘悟写真展「有明海の漁と人々の暮らし」

日 時：2007年1月19日（金）～1月28日（日） 10時～19時（19日のみ17時～）

会 場：九州大学ユーザーサイエンス機構サテライト・LUNETTE 1階

市民セミナー「宝の海・有明海の秘密－それは“濁ったみず”」

日 時：2007年1月20日（土） 13時30分～15時30分

会 場：アクロス福岡文化情報ラウンジ2階・セミナー室2

講 師：田中 克 氏（京都大学フィールド科学教育研究センター）

クロージングセッション「守りたい！海のゆりかご～有明海の夜明けを迎えるために～」

日 時：2007年1月28日（日） 15時～17時

会 場：九州大学ユーザーサイエンス機構サテライト・LUNETTE 2階

スピーカー：田北 徹 氏（長崎大学名誉教授）

モデレーター：佐藤 剛史 氏（九州大学農学研究院）

### 3. 学術標本

#### 3-1. 寄贈標本・資料

2005年6月22日 小菅 貞男著 W. H. Dall記載の貝類模式標本写真集（北・西太平洋産巻貝類），ほか書籍19点（寄贈者：軟体動物学研究所長 小菅 貞男）

2005年10月31日 エアーハンマー（B. & S Massey社製）ほか工作機械6点（九州大学工学研究院より移管）

2006年3月24日 鉦山関連文書・材料工学部所蔵文書255点（九州大学工学研究院より移管）

2006年10月20日 鏡山 猛先生の発掘調査図面・写真・実測図・本など，衣装ケース・ダンボール箱57個（寄贈者：日本習字教育財団理事長 原田 博至）

2006年10月29日 佐々治コレクション（甲虫類文献資料ほか）約300点（寄贈者：佐々治 紀子）

2007年1月10日 中山平次郎先生収集考古資料および原稿・抜刷など，整理棚一棹分一括（寄贈者：岡部 信彦）

2007年3月22日 上宮コレクション（ハエ目キモグリバエ科）約2万点（寄贈者：上宮 健吉）

#### 3-2. 標本整理・データベース化

2005年度は九州大学間接経費（全学共通分）から534.7万円の配分をうけ，博物館運営経費と併せて634.7万円，2006年度は九州大学間接経費（全学共通分）から576.1万円の配分をうけ，博物館運営経費と併せて676.1万円の予算を組み，資料部を中心に標本整理・データベース化を行った。結果の一部は総合研究博物館のホームページ上に，「所蔵標本データベース」として公開した。

### 4. 情報発信

#### 4-1. インターネットミュージアム

「大学博物館西東」をホームページ上に公開（2005年2月）

「倭人伝の道と北部九州の古代文化」をホームページ上に公開（2005年9月）

「九州大学所蔵標本資料展Ⅰ－自然界のなかまたち－」をホームページ上に公開（2006年2月）

「九州大学教育・研究の最前線－第4回P&P研究成果－」をホームページ上に公開（2007年2月）

「九州大学教育・研究の最前線 - 第5回P&P研究成果 -」をホームページ上に公開（2007年2月）  
「海ののりもの展」をホームページ上に公開（2007年2月）

#### 4-2. 所蔵標本データベース

総合研究博物館では九州大学全学共通分間接経費の配分をうけるとともに、博物館運営経費の中にも予算を組み、資料部兼任教員の協力を得て、資料整理・データベース化を進めてきた。現在までに下記のコレクションについてデータベース化を終え、博物館のホームページ上で一般に公開している。なお、カッコ内は登録データ件数である。

動物・医動物標本（528）、海洋生物標本（3,242）、昆虫標本（27,048）、植物標本（10,230）、化石標本（19,464）、化石関連文献資料（6,976）、鉱物・岩石（8,570）、考古遺物（1,585）、骨格標本（2,392）、記録資料（146,227）

#### 4-3. 出版・印刷

九州大学総合研究博物館ニュースNo.5を発行（2005年10月）  
九州大学総合研究博物館研究報告4号を発行（2006年1月）  
九州大学総合研究博物館ニュースNo.6を発行（2006年3月）  
九州大学総合研究博物館（平成12～16年度）外部評価報告書を発行（2006年3月）  
九州大学総合研究博物館ニュースNo.7を発行（2006年10月）  
九州大学総合研究博物館研究報告5号を発行（2007年1月）  
九州大学総合研究博物館ニュースNo.8を発行（2007年3月）

### 5. 新聞等による報道

- 熱帯のチョウ・ナナフシ・クワガタ... 九大の標本公開（朝日 05年8月12日）
- 九大伊都キャンパス開校記念「可也山」登り歴史知ろう「九大・糸島会」（読売 06年2月19日）
- 謎の巻き貝じわり拡大野菜荒らす外来種 九大・松隈教授が実態本格調査（西日本 06年2月25日）
- 総合研究博物館骨格標本室を特別公開（毎日、読売、朝日、西日本 05年5月9、10日）
- 総合研究博物館古人骨資料公開 頭骨を中心に60体展示（読売 06年5月25日）
- 九州大学で古人骨公開 学際研究へ活用を期待（朝日 06年6月2日）
- 外来種「オオクビキレガイ」生態系への影響探る 松隈教授（朝日 06年7月13日）
- 「海ののりもの展」少年科学文化会館で（朝日 06年8月16日）
- 九大と糸島地区一市二町 地引き網交流（西日本 06年10月22日）
- 外来カタツムリ繁殖 農作物への食害調査開始 松隈教授（紀伊 07年1月16日）
- 古文書を解読 実相に迫る 変遷の視点 宮崎助教授（朝日 07年1月27日）
- 大学・地域との連携 松隈明彦九大・糸島会幹事長（読売 07年3月21日）

## IV. 教員の研究活動

### 岩永 省三 (いわなが しょうぞう)

Shozo IWANAGA

#### <研究の紹介>

日本の弥生時代～8世紀に至る社会を主要な研究対象としている。

日本の古代国家形成過程を、東アジアの他地域と比較しつつ研究している。古代国家中枢部たる都城に見られるさまざまな事象から王権としての特性の解明をめざしている。

#### <所属学会>

日本考古学協会, 九州考古学会, 木簡学会

#### <研究資金>

科学研究費・基盤研究(C)(2006年度～2009年度:代表)古墳時代社会の変容過程の研究

#### <学外委員等>

春日市文化財専門委員会委員

島根県古代文化センター客員研究員

#### <研究業績>

原著論文

- (1)「国家形成の東アジアモデル」『東アジア古代国家論』, すいれん舎, 東京, 87-119.
- (2)「大嘗宮の付属施設」『喜谷美宣先生古希記念論集』, 喜谷美宣先生古希記念論集刊行会, 大阪, 343-355.
- (3)「いわゆる東夷社会における国家形成モデル」『東アジアと日本:交流と変容』総括ワークショップ報告書, 九州大学, 福岡, 123-135.

#### 報 告

- (1)「日本古代都市の形成と変容」九州大学21世紀COEプログラム『東アジアと日本:交流と変容』第一サブテーマワークショップ『古代東アジアにおけるアイデンティティの形成と変容』(2006年7月16日)
- (2)「東夷社会における国家形成モデル」九州大学21世紀COEプログラム『東アジアと日本:交流と変容』総括ワークショップ『東アジア世界の形成と中華の変容』(2006年11月8日)

#### 講演等

- (1)「荒神谷の銅剣について」平成18年度荒神谷博物館特別講座(第5回)

# 中牟田 義博 (なかむた よしひろ)

Yoshihiro NAKAMUTA

## <研究の紹介>

微小結晶のX線粉末法による精密解析の基礎的および応用的研究

X線粉末法は結晶の構造状態を調べる上で最も簡便で、多くの研究室で日常的に広く利用されている。しかし、従来のディフラクトメータを用いた解析では少なくとも数十mgと多量の試料が必要となる。今日、我々が研究対象としなければならない鉱物の多くは、隕石を構成する鉱物や超高压合成によって得られる鉱物の例を挙げるまでもなく、微小かつ微量なものとなっており、数十ミクロン大の結晶1個のみからでも結晶の構造状態を読みとる一般的手法の開発およびその地球科学的応用が求められている。

このような要請に応えるため、30ミクロン程度の結晶粒子1個のみで粉末X線回折データが得られるガンドルフィカメラで撮影された粉末写真をマイクロデンシトメータでパソコン上に読みとり、これにプロファイルフィッティング法を適用することによって、ディフラクトメータと同程度の精度での解析を行う手法の開発を行ってきた。このような手法は、現在までの私の研究ではほぼ確立され、高解像度イメージングプレートの導入などにより実験の迅速化、および自動化を進めている。

微小結晶のX線粉末法による精密解析の応用として、以下のテーマについて研究を進めている。

1. ユレイライト隕石中に含まれるダイヤモンドの成因とユレイライト母天体の進化過程。
2. カンラン石の格子歪みを用いたコンドライト隕石の被衝撃圧の定量的評価と惑星進化。
3. 斜長石温度計を用いた初期太陽系惑星の熱史の解明。
4. 微小試料の精密X線分析による考古遺物、とくに装飾用顔料の評価。

## <所属学会>

日本鉱物学会, 日本結晶学会, アメリカ鉱物学会, 隕石学会, 放射光学会, 日本粘土学会

## <研究資金>

科学研究費・基盤研究(C)(2004年度-2006年度 代表)カンラン石の格子歪みによるコンドライト隕石の被衝撃圧の定量的評価

## <委嘱>

1992-2006 日本鉱物学会編集委員

2006-2009 日本鉱物学会評議員

## <海外渡航>

2006年8月6日~12日, スイス国チューリッヒ, 国際隕石学会にて研究発表のため。

## <研究業績>

### 原著論文

- (1) 藤昇一, 青木大空, 中牟田義博, 2005. 収束イオンビーム法を用いたX線単結晶試料の加工. 九州大学超高压電顕室研究報告, No.29, 97-98.
- (2) 青木大空, 藤昇一, 中牟田義博, 2005. X線回折実験を行った衝撃隕石の微細組織観察. 九州大学超高压電顕室研究報告, No.29, 97-98.
- (3) 青木大空, 藤昇一, 中牟田義博, 2006. コンドライト隕石中のかんらん石結晶の見かけ格子歪みと転移の関係. 九州大学超高压電顕室研究報告, No.30, 113-114.
- (4) Y. Nakamuta, T. Nakamura and N. Nakamura, 2006. Structural state of plagioclase from the Kobe CK chondrites: implications for the thermal history of the CK parent body. *Journal of mineralogical and petrological Sciences*, Vol. 101, 308-318.

### 学会発表

- (1) Y. Nakamuta, Y., Owaki, R. and Takeda, H., 2005. Plagioclase thermometry of Caddo County IAB iron meteorite. NIPR, Tokyo.
- (2) 中牟田義博, 2005. 隕石中にlonsdaleiteは存在するか? 日本鉱物学会2005年度年会, 愛媛.
- (3) 青木大空, 藤昇一, 中牟田義博, 2005. X線単結晶試料のFIB加工. 日本鉱物学会2005年度年会, 愛媛.
- (4) 大脇亮一, 中牟田義博, 武田弘, 2005. Caddo County IAB鉄隕石中の斜長石の生成温度と組織. 日本鉱物学会2005年度年会.
- (5) Y. Nakamuta, S. Yamada and K. Yoshida, 2006. Estimation of shock pressure experienced by each ordinary chondrite with an X-ray diffraction method. 69<sup>th</sup> Annual Meeting of the Meteoritical Society, Zurich.
- (6) Y. Nakamuta, 2006. Lonsdaleite, doubt on the existence in meteorites. 19<sup>th</sup> general Meeting of the International Mineralogical Association, Kobe.
- (7) Y. Nakamuta and S. Uehara, 2006. Ko collection of minerals and the Kyushu University Museum, Japan. 19<sup>th</sup> general Meeting of the International Mineralogical Association, Kobe.
- (8) Y. Nakamuta, 2006. Raman spectra of carbon minerals in Antarctic ureilites. The 30<sup>th</sup> Symposium on Antarctic Meteorites, NIPR, Tokyo.
- (9) T. Aoki, S. Toh and Y. Nakamuta, 2006. TEM observation of olivine crystals in chondrites focused on dislocation density in relation to apparent strain of a lattice. 19<sup>th</sup> General Meeting of the International mineralogical Association, Kobe.
- (10) C. Nishizaki and Y. Nakamuta, 2006. Mineralogical properties of Sahara98222 L6 chondrite: Implications for the thermal history. 19<sup>th</sup> General Meeting of the International mineralogical Association, Kobe.
- (11) T. Aoki and Y. Nakamuta, 2006. The difference of apparent strain of olivine crystals between clastic and nonclastic parts of Naryilco LL6 chondrite. The 30<sup>th</sup> symposium on Antarctic Meteorites, NIPR, Tokyo.

# 松隈 明彦 (まつくま あきひこ)

Akihiko MATSUKUMA

## <研究の紹介>

化石・現生軟体動物を素材として、動物地理学、古生物地理学、生物測定学等を用いて分類を行い、日本の軟体動物相の特徴と形成過程、種分化、遺伝的多型現象の研究を行っている。最近は、外来種の侵入方法、国内での拡散方法とスピード、在来の生態系や人間生活への影響についても研究している。

## <所属学会>

日本貝類学会、日本地質学会、日本ベントス学会、Western Society of Malacologists

## <学外委員等>

日本貝類学会副会長 (2005, 2006年度)

西宮市貝類館運営委員、嘱託 (2006年度)

## <海外渡航>

2005.7.23-7.26, 韓国江原道春川市ほか、陸産貝類相の調査.

2005.11.24-12.24, 文部科学省学芸員等在外研修, Museum National d'Histoire Naturelle, Paris.

2006.7.20~7.27, 国際二枚貝集会, バルセロナ自由大学.

## <研究業績>

### 原著論文

- (1) Hamada, N. & Matsukuma, A., 2005. A new species of Japanese Chama (Bivalvia: Chamoidea), with a calcitic outermost layer. *Venus (Japan. Jour. Moll.)*, 64 (1-2) : 11-21.
- (2) 亀山宗彦・下山正一・宮部俊輔・宮田雄一郎・杉山哲男・岩野英樹・檀原徹・遠藤邦彦・松隈明彦, 2005. 始良カルデラ堆積物の層序と年代について - 鹿児島県新島 (燃島) に基づく研究 -. 第四紀研究 44 (1) : 15-29.
- (3) Matsukuma, A., 2006. Species of *Exotica* (Bivalvia: Tellinidae) from New Caledonia. *Organisms Diversity and Evolution*, 6, Electric Supplement, 16, part 1: 56.
- (4) 松隈明彦・秋月定良・秋月シズカ・嶺井久勝, 2006. 偶発的移入種オオクビキレガイ (腹足綱: オオクチキレガイ科) の福岡県での生息状況とその拡散速度. *ちりぼたん* 37 (1) : 7-12.

### 著書

- (1) 松隈明彦, 2005. 二丈町誌, 第1章, 自然, 3-31, 53-86, 118-124.

## 報 告

- (1) Kajiwara, T. & Matsukuma, A., 2005. Molluscan specimens of Kyushu University, Japan. 1. Cenozoic molluscan fossils collected by Professor Emeritus Tsugio Shuto. Bulletin of the Kyushu University Museum, no. 3: 107-206.

## 講演等

- (1) 私の国際交流. 前原市国際交流協会, 前原市役所, 2006.2.2.
- (2) 福岡県のオオクビキレガイ. 西宮市貝類館, 2006.6.19.
- (3) 福岡県糸島郡の陸産貝類相. 西宮市貝類館, 2006.6.19.
- (4) 大学博物館は何を目指すか. 九州大学理学部同窓会, 博多都ホテル, 2006.10.14.
- (5) 貝類から見た糸島の自然. 九大・糸島会地域資源再発見塾, 志摩町, 2007.2.17.

## 学会発表

- (1) 松隈明彦, 2006.6.23. 九大博の社会連携活動ーコミュニケーションミュージアム事業. 第1回博物科学会, 北海道大学.
- (2) Matsukuma, A., 2006. Species of *Exotica* (Bivalvia: Tellinidae) from New Caledonia, International Congress of Bivalvia, Universidad Autonoma de Barcelona.

# 中西 哲也 (なかにしてつや)

Tetsuya NAKANISHI

## <研究の紹介>

2001年度に発足した特定領域研究「我が国の科学技術黎明期資料の体系化に関する調査研究（通称：江戸のモノづくり）」の計画研究「日本の鉱山技術資料の総合的調査と総合目録の作成」（2002-2005年度）を担当し、江戸時代の総合科学であった鉱山技術について、日本の主要鉱山や各地の大学・博物館に残っている道具や古文書史料などを調査し、江戸時代の鉱山技術を体系化するための基礎調査を進めてきた。

また、鉱山の地質学的な調査や、鉱石および生産遺跡から出土する製錬滓の化学分析等を行い、当時の製錬技術や採掘の対象となった鉱石について検証を試みてきた。特に、奈良の大仏の銅を供給したとされる山口県美祢郡美東町長登銅山では、周辺で採取した銅鉱石や製錬滓の分析から、当時の鉱石が孔雀石のような酸化銅鉱である事を明らかにした。さらに、美東町町民による奈良時代の銅製錬の再現実験に際し、原料鉱石や実験後のカラミ、生成金属等の分析を担当し、実験の学術的なサポートを行ってきた。その他、2006年9月に北京で開催されたBUMA-VI（金属利用の歴史に関する国際会議）では島根県石見銀山の鉱石と製錬滓についての分析値の報告を行った。

## <所属学会>

資源地質学会, 資源・素材学会, 日本鉱業史研究会

## <研究資金>

科学研究費・特定領域研究（A）「我が国の科学技術黎明期資料の体系化に関する調査研究」、計画研究（2002-2005年度 代表）「日本の鉱山技術資料の総合的調査と総合目録の作成」

## <海外渡航>

2005.9.4-20, スウェーデン, ドイツ, スロバキアの鉱山の調査.

2006.9.15-9.29, 中国北京BUMA-VI参加, 江西省, 安徽省, 湖北省において鉱山, 鉱山関連遺跡の巡検.

## <研究業績>

### 原著論文

- (1) 吉川竜太・本村慶信・中西哲也・井澤英二, 2005. 古代長登銅山の製錬滓の研究. 日本鉱業史研究, No.50, 27-40.
- (2) T. Nakanishi, R. Yoshikawa, Y. Motomura and E. Izawa, 2006. Characteristics of Ores and Slags from the Iwami-Ginzan Silver Mine Site. *The 6th International Conference on the Beginnings of the Use of Metals and Alloys*, 49-50.
- (3) R. Yoshikawa, Y. Motomura, T. Nakanishi and E. Izawa, 2006. Smelting of Oxidized Copper Ore -Ore and Slag from the Naganobori Mine in the Early 8th Century. *The 6th International*

*Conference on the Beginnings of the Use of Metals and Alloys, 26-27.*

- (4) 中西哲也・井澤英二, 2006. 山梨県丹波山金山遺跡の鉱石探索. 資源・素材学会2006年秋季大会講演集.
- (5) 吉川竜太・本村慶信・中西哲也・井澤英二, 2006. 大分県木浦鉱山天神原地区のゆりかすと千人間歩地区のスラグ, 日本鉱業史研究, No.51, 5-16.
- (6) 中西哲也, 2007. 江戸期鉱業の器物資料-所在と保存の現状-. 資源・素材学会2007年春期大会講演集, 121-124.
- (7) 井澤英二・中西哲也, 2007. 中国揚子江流域の古代銅鉱山遺跡を訪ねて. 資源・素材学会2007年春期大会講演集, 129-132.
- (8) 井澤英二・吉川竜太・本村慶信・中西哲也, 2007. 石見銀山の高品位鉱石の特徴と製錬, 本鉱業史研究, No.53, 36-55.

#### 学会発表

- (1) 中西哲也・井澤英二, 2006. 江戸時代の鉱山技術資料の調査. 第8回江戸のモノづくり国際シンポジウム「近世科学技術のDNAと現代ハイテクにおける我が国科学技術アイデンティティの確立」.
- (2) 井澤英二・中西哲也, 2006. 南蛮吹の伝播と普及～ヨーロッパの銅精錬技術の影響～. 第8回江戸のモノづくり国際シンポジウム「近世科学技術のDNAと現代ハイテクにおける我が国科学技術アイデンティティの確立」.
- (3) T. NAKANISHI, R. YOSHIKAWA, Y. MOTOMURA and E. IZAWA, 2006. Characteristics of ores and slags from the Iwami-Ginzan silver mine site. The 6th International Conference on the Beginning of the Use of Metals and Alloys (BUMA-VI).
- (4) 中西哲也・井澤英二, 2006. 山梨県丹波山金山遺跡の鉱石探索. 資源・素材学会
- (5) 吉川竜太・本村慶信・中西哲也・井澤英二, 2006. 石見銀山の鉱石の特徴と製錬. 資源・素材学会
- (6) 中西哲也・吉川竜太・井澤英二, 2006. 鉱山技術史への鉱床学の貢献-新しい鉱山技術史を目指して-. 資源地質学会
- (7) 中西哲也, 2007. 江戸期鉱業の器物資料-所在と保存の現状-. 資源・素材学会2007年春期大会.

# 宮崎 克則 (みやざき かつのり)

Katsunori MIYAZAKI

## <研究の紹介>

1) シーボルト『NIPPON』の書誌学研究, 2) 前近代における日本人のヨーロッパ認識・ヨーロッパ人の日本認識, 3) 絵画を通して見た近世日本の民衆文化論, 4) 画像・テキストデータの横断検索システム開発。

## <所属学会>

日本歴史学会, 九州史学研究会, 洋学史学会

## <研究資金>

平成18年度三菱財団助成, シーボルト『NIPPON』の書誌学的検討とその歴史的意義。

## <学外委員等>

2006年5月24日～2007年3月31日 人間文化研究機構国文学研究資料館共同研究員。

## <海外渡航>

2005年7月3日～5日 韓国の倭城調査(永登浦城, 松真浦城, 長門浦城, 熊川城, 晋州城)

2005年9月4日～20日 ヨーロッパの主要な銀山・銅山と製錬技術の調査(スウェーデン・ファールン鉱山, ドイツ・フライベルク鉱山, スロバキア・バンスカスティアビニツカ鉱山)

2006年12月2日～22日 ドイツのシーボルト・コレクション調査(ボフム大学・ブランデンシュタイン城博物館, ミュンヘン国立民族学博物館)

## <研究業績>

### 原著論文

- (1) K. Miyazaki, 2005. Characteristic of popular movements in nineteenth-century Japan: Riots during the second Choshu-War. JAPAN FORUM, The British Association for Japanese Studies, No. 17-1.
- (2) 宮崎克則, 2006. シーボルト『NIPPON』の山々と谷文晁『名山図譜』. 九州大学総合研究博物館研究報告, 4号.
- (3) 宮崎克則, 2007. シーボルト『NIPPON』の色つき図版. 九州大学総合研究博物館研究報告, 5号.
- (4) 宮崎克則, 2007. 九大附属図書館にある天和2年「御国絵図」の来歴について. 市史研究ふくおか, 2号, 福岡市博物館市史編纂室.

## 著 書

- (1) 宮崎克則, 2005. 古地図の中の福岡・博多. 海鳥社.

## 学会発表・講演等

- (1) 宮崎克則, 2005/11/15. 九州大学デジタル・アーカイブの構築について. 公開シンポジウム「大学ミュージアム・アーカイブズを考える」, 駿河台大学「大学ミュージアム・アーカイブズを考える」実行委員会, 駿河台大学, 埼玉県.
- (2) 宮崎克則, 2006/2/18. 逃げる百姓 追う大名. 豊前市人権推進委員会, 豊前市隣保館, 福岡県.
- (3) 宮崎克則, 2006/3/3. 復元 シーボルト日本の配本. 国際シンポジウム「日独シーボルト・シンポジウム」, ドイツ大使館・日独文化交流会, ドイツ大使館, 東京都.
- (4) 宮崎克則, 2006/5/11. 古地図の中の福岡・博多. 九州大学開学記念式典講演会, 九州大学・財団法人九州大学講演会, 九州大学50周年記念講堂.
- (5) 宮崎克則, 2006/11/12. 江戸時代にタイムスリッパー古地図の中の福岡・博多ー. 福岡県立図書館読書週間事業, 福岡県立図書館.
- (6) 宮崎克則, 2006/11/19. 九州大学のシーボルト・コレクション. 平成18年度福史連地区研究集会, 福岡県地方史研究連絡協議会, 九州大学50周年記念講堂.

# 小島 弘昭 (こじま ひろあき)

Hiroaki KOJIMA

## <研究の紹介>

生物界で最大の分類単位といわれるゾウムシ科を含むゾウムシ上科を材料に、分類をベースとした総合的自然史研究を行っている。現在知られているだけでも6万種、推定種数は少なく見積もって20万種以上ともいわれる膨大な種数を含むゾウムシ類についてイギリス、ドイツ、カナダ、アメリカ、オーストラリアなど世界各地の研究者と連携し、世界のゾウムシ相を解明しようという21世紀の多様性生物学、あるいは分類学最大のチャレンジテーマに取り組んでいる。私の担当は、主にアジア-太平洋地域であるが、高次レベルでの関係を調べる際などは世界的視野に立った材料の検討も行っている。また、ゾウムシ類は植食性の甲虫で、植物と密接に関係しながら進化してきたグループで、ゾウムシ-植物の相互関係にも深い関心を持ちつつ研究を進めている。

アジア地域の材料を主に研究していることと、大きな分類群を扱っていることから日華系生物群の起源や林冠昆虫相の多様性にも興味を持っており、とくに林冠研究については昆虫相解明に向けたプロジェクトを近年スタートさせた。

大学博物館では情報関連の研究系に所属しており、研究のサブワークとしてデータベース化などにも取り組んでいる。また、これまでの分類学の成果は特定の研究者以外には使いづらいという話も聞かれるので、近年の情報関係の技術を導入し、誰にでも使い易い分類学的業績の出版形態なども模索中である。

## <所属学会>

日本昆虫学会, 日本鞘翅学会, アメリカ甲虫学会

## <研究資金>

- |                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 科学研究費・若手研究 (B) (2004~2006年度 代表) | 国内における林冠昆虫研究の展開：植食性甲虫の多様性と寄主特異性          |
| 科学研究費・基盤研究 (A) (2005~2007年度 分担) | 熱帯アジアにおける昆虫インベントリーと国際ネットワークの拡大           |
| 科学研究費・基盤研究 (B) (2006~2008年度 分担) | ゴンドワナ起源の陸塊に隔離分布する食材性昆虫類の分子に基づく系統生物地理学的研究 |
| 科学研究費・基盤研究 (A) (2006~2008年度 分担) | アジア産農林害虫・有用昆虫の種情報の体系化・ネットワーク化と分散検索システム   |

## <学外委員等>

- 2005, 2006年度 日本昆虫学会庶務幹事  
2003年~ 日本鞘翅学会非常任幹事  
2002年~ 日本ゾウムシ情報ネットワーク幹事  
2004~2005年 昆虫分類学若手懇談会幹事

## <研究業績>

### 原著論文

- (1) H. Kojima and Idris A.G., 2005. *Cotasteromorphus*, a new genus of Cotasteromimina (Coleoptera, Curculionidae, Molytinae, Pissodini) from the Malaysian moss forests. *Elytra*, 33: 134-141.
- (2) Morimoto, K. & H. Kojima, 2005. Three additional species of Brentidae to the fauna of Japan (Coleoptera, Curculionoidea). *Elytra*, 33: 126-133.
- (3) H. Kojima and K. Morimoto, 2005. Weevils of the tribe Acalyptini (Coleoptera: Curculionidae: Curculioninae) : redefinition and a taxonomic treatment of Japanese, Korean and Taiwanese species. *Esakia*, (45) : 69-115.
- (4) 小島弘昭・関東準之助・福澤卓也, 2005. イリオモテシギゾウムシはブナ科利用か? 甲虫ニュース, (152) : 4.
- (5) 小島弘昭, 2005. イボイボアナアキゾウムシ九州に産する. 甲虫ニュース, (152) : 7-8.
- (6) 小島弘昭・的場 績, 2005. コバンモチから得られたツブゾウムシ属の2種. 甲虫ニュース, (152) : 8.
- (7) 小島弘昭, 的場 績, 関東準之助, 2005. アトキリノミゾウムシの分布ならびに成虫の採集記録. 甲虫ニュース, (152) : 12.
- (8) 小島弘昭, 2005. ヒラシマシギゾウムシの分布および成虫の採集記録. 甲虫ニュース, (152) : 22.
- (9) H. Kojima and K. Morimoto, 2007. The tribes Ottistirini and Viticiini (Coleoptera, Curculionidae) from the Islands of Lanhsu, Taiwan. *Elytra*, 35: 238-245.
- (10) K. Morimoto and H. Kojima, 2007. Taxonomic notes on the tribe Mecysolobini (Coleoptera, Curculionidae), with descriptions of three new taxa from Japan. *Elytra*, 35: 226-237.
- (11) H. Kojima, 2006. Association of Viticiini (Coleoptera: Curculionidae: Cyclominae) with *Ficus* (Moraceae). *Coleopterists Bulletin*, 60: 42.
- (12) K. Morimoto and H. Kojima, 2006. Larvae of *Desmidophorus crassus* and the systematic position of the Desmidophorini (Coleoptera: Curculionoidea). *Esakia*, (46) : 89-100.
- (13) 小島弘昭, 2006. シギゾウムシ2種の分布記録と寄主植物の推定. 甲虫ニュース, (156) : 13.
- (14) 小島弘昭, 2006. ヒダカノミゾウムシの分布および成虫採集記録. 甲虫ニュース, (156) : 30.
- (15) 小島弘昭, 2006. ヤシ類の花に群がるゾウムシ. 昆虫分類学若手懇談会ニュース, (83) : 5-21.
- (16) 小島弘昭, 2006. クリシギゾウムシのウラジロガシからの採集記録. 甲虫ニュース, (153) : 28.
- (17) 小島弘昭, 2006. アジアの昆虫地理概説. 昆虫と自然, 41 (3) : 16-20.
- (18) 小島弘昭, 2006. 特異な物と産卵習性. 昆虫と自然, 41 (6) : 11-17.

### 著 書

- (1) 小島弘昭, 2006. 東南アジアのゾウムシ 起源と多様性, 植物との関わり. 緒方一夫ほか編著「昆虫たちのアジア」, 九州大学出版会.
- (2) 小島弘昭, 2006. 単子葉植物に適応したオサゾウムシ. 丸山宗利編著「森と水辺の甲虫誌」, 東海大学出版会.

- (3) K. Morimoto, H. Kojima and S. Miyakawa, 2006. The Insects of Japan 3. Curculionoidea: General Introduction and Curculionidae: Entiminae (Part 1). Phyllobiini, Polydrusini and Cyphicerini (Coleoptera). 406pp. 日本昆虫学会編, 権歌書房.

#### 報 告

- (1) 小島弘昭, 2006. ハイビスカスの危機! 九州大学総合研究 博物館ニュース, (6) : 2-3.
- (2) H. Kojima, 2005. An inventory of the tropical Asian weevils, with special reference to the Malesian fauna (Coleoptera: Curculionoidea). Report on Insect Inventory Project in Tropic Asia (TAIIV) : 249-287.
- (3) 小島弘昭, 2005. 輸入家具から羽化した外国産タマムシ. 九州大学総合研究博物館ニュース, (5) : 2-3.

#### 学会発表

- (1) 小島弘昭・金城政勝, 2006. ハイビスカスが枯れる! ハスオビコブゾウムシによる被害の現状. 第66回日本昆虫学会大会, 鹿児島大学.
- (2) 小島弘昭・Idris A.G., 2005. ヤシ類の訪花性甲虫ゾウムシ類を中心とした熱帯アジアでの多様性. 第65回日本昆虫学会大会, 岡山大学.
- (3) 小島弘昭, 2005. ゾウムシ類の進化 口吻の獲得と寄主植物との共進化. 第65回日本昆虫学会大会, 岡山大学.
- (4) 小島弘昭・今坂正一, 2005. 国内の林冠甲虫相 (1) - フォギング法による九州中間温帯林での調査結果 -. 日本鞘翅学会第18回大会, 倉敷市立自然史博物館.

# 三島 美佐子 (みしま みさこ)

Misako MISHIMA

## <研究の紹介>

主に植物や昆虫の種分化や分布に関わる自然史的研究を行っている。

この2年間では、屋久島安房林道に分布するバラ科キイチゴ属植物の系統解析と自然交雑についての調査、屋久島に分布するサンショウソウの倍数性とその分布の調査、虫えいを形成するタマバエ科昆虫であるシロダモタマバエと、その宿主植物であるシロダモ（クスノキ科）の日本全国の地理的分布の調査を行った。キイチゴ属植物については今後、日本に分布する種群の系統関係を明らかにし、現在ある分類学的な問題や、交雑および倍数性に関わる疑問を解決していく。一方タマバエ科昆虫については今後、虫えい多型を示す群を用い、虫えい形状が分化していくメカニズムや、それが虫えい形成昆虫の種分化にどのように影響しているかを、宿主植物の解析を含めつつ解明していく。

## <所属学会>

日本進化学会、日本植物学会、日本植物分類学会、染色体学会、種生物学会、植物地理分類学会、日本植生史学会

## <研究資金>

財団法人九州大学後援会平成18年度助成事業（2006年度 代表）虫えい形状の進化－寄主植物の種分化と地理的変遷からのアプローチ。

九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト（2004～2006年度 分担）生物多様性の保全と進化に関する研究拠点形成。

## <学外委員等>

2005年1月～2006年12月 日本植物分類学会ニュースレター編集幹事

1998年4月～2006年12月 種生物学会和文誌編集委員

## <海外渡航>

2006年3月4日～6日 大韓民国，濟州島。

## <研究業績>

### 原著論文

- (1) M. Mishima and J. Yukawa, 2007. Dimorphism of leaf galls induced by *Pseudasphondylia neolitsea* (Diptera: Cecidomyiidae) on *Neolitsea sericea* (Lauraceae) and their distributional patterns in Kyushu, Japan. Bulletin of the Kyushu University Museum, 5, 57-64.

## 報 告

- (1) 三島美佐子, 2007. ムシできない話・その1. 日本植物分類学会ニュースレター.

## 学会発表

- (1) 三島美佐子, 2005/9. シロダモに形成される虫えいの多型. 日本植物学会, 富山市.
- (2) M. Mishima, M. Nakazawa, T. Yahara and J. Yukawa, 2005/9. Differentiation in gall morph prior to gall midge speciation: a case study of gall dimorphism exhibited by *Pseudasphondylia neolitiseae* (Diptera: Cecidomyiidae). The 4th international symposium of gall forming insects, Kyoto City.
- (3) 三島美佐子・佐藤信輔・湯川淳一, 2006/12. ブナカイガラタマバエのゴール多型と遺伝的分化. 種生物学会, 高島市.
- (4) M. Mishima, S. Sato and J. Yukawa, 2006/9. Significance of gall polymorphism in the speciation of galling cecidomyiids (Diptera: Cecidomyiidae)., 6th International Congress of Dipterology, 2006/09, Fukuoka City.
- (5) 中澤幸・三島美佐子・藤田卓・田金修一郎・矢原徹一・河原孝行, 2006/3. シロダモ (クスノキ科) とその近縁種の類縁関係と地理的変異. 日本植物分類学会, 沖縄市.

## 講演等

- (1) 三島美佐子, 2006/12. 理系のススメ. 九州大学女子中高生向け「理系への招待」-同窓会組織との連携による理系進学者ロールモデル明示プラン- (平成18年度文部科学省「女子中高生理系進路選択支援事業」), 明治学園高等学校, 北九州市戸畑区.

## V. 規 則

### 九州大学総合研究博物館規則

#### 第1条（趣旨）

この規則は、九州大学学則（平成16年度九大規則第1号。以下「学則」という。）第13条第2項の規定に基づき、総合研究博物館（以下「博物館」という。）の内部組織その他必要な事項を定めるものとする。

#### 第2条（目的）

博物館は、学術標本の収蔵、分析、展示・公開等及び学術標本に関する研究教育の支援並びにこれらに関する調査研究を行うとともに、学内外の研究教育活動に寄与することを目的とする。

#### 第3条（館長）

学則第26条の規定により、博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、九州大学の教授のうちから第5条に規定する運営委員会の推薦により、総長が任命する。
- 3 館長の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 館長は再任されることができる。ただし、引き続き再任される場合は、1回を限度とする。

#### 第4条（副館長）

学則第26条の規定により、博物館に、副館長を置く。

- 2 副館長は、博物館の専任の教授及び准教授のうちから館長の推薦により、総長が任命する。
- 3 副館長の任期は、2年とする。ただし、当該副館長への就任時における館長の任期の終期を超えることはできない。
- 4 副館長は、再任されることができる。

#### 第5条（運営委員会）

学則第39条の規定により、博物館に、博物館の重要事項を審議するため、運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
  - (1) 館長及び副館長の選考に関する事。
  - (2) 博物館の教員人事に関する事。
  - (3) 教員の研究業務に係る重要事項に関する事。
  - (4) 共同利用に係る業務の重要事項に関する事。
  - (5) 研究員等に関する事。
  - (6) 研究生等に関する事。

(7) 博物館内の諸規則等の制定改廃に関すること。

(8) 博物館の自己点検・評価に関すること。

(9) その他博物館の管理運営に関すること。

- 3 前項第2号に掲げる事項のうち、教員の選考のための資格審査については、原則として、博物館に設置する教員選考委員会において行うものとする。ただし、必要に応じて、博物館の教育研究に関係する部局の教授会において行うことができる。

## 第6条

運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 総長が指名する副学長

(2) 館長及び副館長

(3) 博物館の専任の教授及び准教授（副館長の職にある者を除く。）

(4) 附属図書館長

(5) 情報基盤センター長

(6) 各研究院の教授及び准教授のうちから選ばれた者 各1人

(7) 各附属研究所の教授及び准教授のうちから選ばれた者 各1人

(8) 理学部等事務長

(9) その他運営委員会が必要と認めた者 若干人

- 2 前項第6号、第7号及び第9号の委員の任期は、2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

- 3 前項の委員は、再任されることができる。

## 第7条

運営委員会に委員長を置き、館長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を主宰する。

- 3 運営委員会に、副委員長を置き、副館長をもって充てる。

- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

## 第8条

運営委員会は、委員の2分の1以上が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

- 2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

## 第9条（専門委員会）

運営委員会に、専門的事項を審議するため、必要に応じて、専門委員会を置くことができる。

#### 第10条（兼任の教員）

博物館に、兼任の教員を置くことができる。

- 2 兼任の教員は、九州大学の教員のうちから運営委員会の推薦により、総長が任命する。
- 3 兼任の教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

#### 第11条（事務）

博物館に関する事務は、当分の間、理学部等事務部において処理する。

#### 第12条（雑則）

この規則に定めるもののほか、博物館の組織及び運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、館長が定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行後、最初に任命される館長及び運営委員会の委員は、この規則の相当規定に基づき任命されたものとみなす。
- 3 この規則の施行の際現に九州大学総合研究博物館規則（平成12年4月1日施行。以下「旧規則」という。）の規定に基づき、兼任の教員に任命されている者は、この規則の相当規定に基づき任命されたものとみなし、その任期は旧規則による兼任の教員として在任した期間を控除した期間とする。

#### 附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

## 九州大学総合研究博物館年報第2号

平成19年10月発行

発行者 九州大学総合研究博物館  
編集者

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1  
Phone/Fax 092-642-4252  
U R L <http://www.museum.kyushu-u.ac.jp>

印刷 株式会社ミドリ印刷  
〒812-0857 福岡市博多区西月隈1-2-11  
Phone 092-441-6747 / Fax 092-473-1275